

スクミリンゴガイ情報第1号（水稻）

令和6年4月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

活動開始が早くなる可能性があります！

1 スクミリンゴガイについて

本種は、ほ場や水路で越冬し、水温 15℃以上で活動を開始します。特に柔らかい植物を好み、田植え後約3週間までの稚苗を食害します。水中で摂食活動を行い、水面上の茎葉も引き込んで摂食するため、食害に遭った部分は欠株となります。多発生の場合、ほとんどの株が食害されることもあります。

2 今後の発生予測

前年6月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は平年に比べて低い状況でした（前年 16.4%、平年 23.7%、前々年 17.2%）。

冬期の気温が高いほど、スクミリンゴガイの越冬量は多くなります。令和5年12月から令和6年2月までの日最低気温の平均値は 3.55℃（平年 2.34℃、前年 2.19℃）と過去10年間で2番目に高い状況です。

また、3月28日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。スクミリンゴガイの活動開始が例年より早まることが考えられるため、早い作型でも本種の発生及び被害に注意しましょう。

3 防除対策

スクミリンゴガイの発生が確認されているほ場では、下表を参考に薬剤散布を行います。本種は田植え後すぐに摂食を開始するため、移植同時または移植直後に薬剤散布を行います。薬剤散布後、少なくとも3～4日間は湛水状態（水深3～5cm）を維持し、7日間は落水、かけ流しをしないようにしてください。

他の対策として、スクミリンゴガイは水中でないと摂食できないため、移植後3週間頃まで浅水管理（水深4cm以下）を行うことや取水口にネット等を設置し、水路から本田への本種の流入を防ぐことも重要です。

4 その他

スクミリンゴガイの防除対策については、農林水産省がマニュアル等（アドレス：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/sukumi.html>）を公開していますので、参考にしてください。

表 水稻のスクミリンゴガイに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スクミノン	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布又は無人航空機による散布	2回以内※
ジャンボたにしくん	メタアルデヒド	収穫60日前まで	散布	2回以内※
スクミンベイト3	磷酸第二鉄	発生時	散布、無人航空機による散布	-

※メタアルデヒドを含む農薬の総使用回数

使用回数には、同一有効成分を含む剤の使用回数を含む。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。